

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に中にあるからこそ出来る一人ひとりの生活に重点をおき、サービスの提供を心がけている。ご近所をはじめ、地域のかかわりを大切にしている。	○	入居者の状態を見ながら地域での生活が安心できるように見直しをしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングや朝・夕の引継ぎ時等を利用し理念にそったケアが出来ているかを話し合っている。	○	毎日の生活の中で理念にそった介護が出来るように職員間で話し合っている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には月一回の「おたより」を発行し日々の生活の様子を伝えている。訪問の多いご家族には個々の話し合いの機会をもうけている。	○	地域のお年よりと散歩の途中で話し込んでいたらお茶に誘ってもらったりしている。そんな雰囲気大切にしていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	利用者の中には地域に同級生や知人が多いので、その人達を通じて季節の果物や野菜を頂いたりしている。	○	感謝の気持ちをお伝えするため、ホームで作った小物入れなど届けるようにしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学生や地域の若者の実習の受け入れ、保育園や中学の文化祭への見学などに参加している。又夏祭りなども協力をしてもらっている。	○	利用者の友達やかつて所属していた老人クラブの会員など顔を出していただけるように働きかけをしていきたい。

認知症グループホームてととと和合

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>6</p> <p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の区長さんを通じて地域の集會に出席させていただき、ホームの内容などの説明をし理解を深めている。又中学生の福祉授業への協力をしている。</p>	○	<p>地域の住民との介護教室や地域行事への参加もしていきたい。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7</p> <p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>第一回のサービス評価なので、ミーティング等で機会を通して全員で話し合いながら進めている。</p>	○	<p>サービス評価の結果を全職員で共有し改善すべき点は改め日々の生活の中に活かしていきたい。</p>
<p>8</p> <p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>サービス評価が実施されることを会議で家族や地域区長や関係区間に周知していく。又運営会議での意見を取り入れていく。</p>	○	<p>運営会議では評価の内容について報告しサービス提供がよりよい方向になるように意見を聞いていく。</p>
<p>9</p> <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所の普段の様子について理解していただけるように、行事や防災訓練には参加を依頼している。</p>	○	<p>利用者の様子について出身市町村や包括センターと連絡を取っていく。</p>
<p>10</p> <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者の中にはまだ対象者はいない。</p>	○	<p>市町村から講師を招いたり権利擁護事業や成年後見制度について職員間で学習していく機会を持ちたい。</p>
<p>11</p> <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎日のサービス提供の中で言葉使いや態度に無意識のうちに不快な場面がないかを職員間で気をつけている。</p>	○	<p>高齢者虐待防止法について学ぶ機会を設けていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書及び別紙を用いて読みながら説明を行なっている。又来所の機会を利用して不安な点の説明も行なっている。	○	利用者の状態が変化した場合について対応可能な範囲についてはしっかりと説明を行なっていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	食事・入浴など場面ごとにお茶の時間を利用して聞く機会をつくっている。希望があったことは出来るだけ生活の中に取り入れるようにしている。	○	利用者との話す機会を多く持ち思いや意見などが話せるような場面づくりをしていく。介護相談員の設置と活用。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	居室担当が中心となり生活の様子などを伝えるように、月一回のお便りを届けている。金銭管理に関しては、家族に使用金額の報告、出納帳のコピーなどを届け報告している。	○	月一回のお便りを利用し日々の生活の報告をしていながら、訪問してくれる家族には個別に話し合う機会を設けている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議・訪問時に個々に話していただいた事項については、職員間で話し合い生活の中に反映している。	○	ご家族が職員に対して何でも話しあえる関係作りを進めている。家族会等を利用し家族同士で気兼ねなく話が出来るように進めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝・夕にミーティング・月例のミーティングなどを利用して職員の意見を聞いて改善点などを話し合い日々の介護に反映させている。	○	職員間の連絡ノート・メモなどにより日々気づいたことは皆に周知し意見などを聞くようにしている。

認知症グループホームてととと和合

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	交代勤務の為全体を見ているが、利用者とのよりよい人間関係を大切にできるように、担当制もとり突発的な事項にも対応出来るようにしている。	○	現在夜勤2名体制で人員がぎりぎり状態である。よりよいケアが出来るようにもう少しゆとりがある人員確保をしていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニットのため職員の異動は無いが、なじみの関係を大切にしている。又居室担当の変更はあるが年2回程度とし全員が利用者全員を見られるように職員間の連絡は密にしている。	○	1ユニットで職員の異動は無いが離職等のケースも考えられるので、顔なじみの関係が壊れてしまわないように配慮していきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護に対する経験年数や持っている資格等もそれぞれ異なるので一人ひとりの状態に応じた研修の機会をもうけている。又終了後は復命書やミーティングの中で皆に伝えるようにしている。	○	利用者の身体状態も重度化していくので実技の研修等も取り入れていきたい。地域の中で訪問看護ステーションの職員にも研修の依頼を交渉していく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域に同業者はいないが、職員が研修に行った際の情報交換を手がかりに交流を持つようにしている。	○	職員研修の実習先事業所を手がかりに交流を進めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	交代勤務の中で全員が参加しての集まりは実行しにくいですが、併設している宅老所の職員の協力により実現している。職員間の人間関係には配慮し、勤務の組み合わせにいかしている。	○	他の事業所との交流も進めていきたい。

認知症グループホームてととと和合

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	県や介護センターなどでおこなわれる研修には交代で参加できるようにし、本人からの自発的な研修希望も取り入れている。資格取得についても個々に継続的に行なっている。	○	健康診断については、個々での対応となっているが、職場としてしっかりと位置づけていきたい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所直後には、個別に話す機会を大切にして生活の場面を通してなるべく発言する場面を多くしている。	○	入所の相談があってから利用までの期間に、家族・本人に対する情報をしっかり得るようにしていきたい。
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所直後は家族の訪問回数も多いので、話し合いの場を多く設けるようにし、お互いの理解が早く出来るようにしている。又いままで利用していた福祉サービスの担当者やその他取り巻く人達からの情報も得るようにしている。	○	家族との面談も何回か設け事業所に対しての理解をしてもらうとともにより良い関係作りをしていきたい。
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を通して本人・家族の思いを受け止めていく。無理をせずホームでの生活についてご家族に理解いただいている。	○	今まで生活してきた周囲の関係者からの情報も参考にしていきたい。(かかりつけ医・福祉サービス関係者)。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と同行の見学やすでに入所している方とのつながりなどを利用して、安心感を持ってもらうようにしている。狭い地域なので知人も多く比較的良い方向にいくケースが多い。	○	やむを得ず早急に入所になるケースについても、知人などに来所してもらい安心感がもてるようにしていく。

認知症グループホームてととと和合

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一日の流れの中で、一緒に過ごす時間が多 いので若いころ生活していたころの事を話題 にし、職員もいつかは年をとっていくのだから と思いを一つにしている。	○	小さな畑で野菜を育てているが、主になるの は経験の沢山あるお年寄りで、何かと頼りに して教えて頂いている。日常生活の中では、 見られない場面が見られている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えてい く関係を築いている	職場の中で何人かは何人かはすでに自宅 で介護経験しているため、家族の思いを受け 止めやすいので、経験をもとにした話などを している。	○	利用者の急な変化の時などの方法などは、 一緒に考え協力してもらう場面を作っていく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努 め、より良い関係が築いていけるように支援し ている	来所時にはなるべく居室にて一緒にお茶を 飲みながらゆっくり話が出来るように配慮し ている。又一ヶ月に一度はお便りにより近況 を知らせている。	○	都合のつく限りホームを訪問してもらうよう に働きかけを行い、土日を中心に来所を進めて いる。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や 場所との関係が途切れないよう、支援に努めて いる	ご近所の方や知人がホームに訪問してくれ ることが度々あり、とても楽しみにされている ので個々でゆっくり過ごせるように配慮して いる。	○	地域の学校の子供たちの訪問や運動会を見 に行ったりなどの交流を大切にしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤 立せずに利用者同士が関わり合い、支え合 えるように努めている	「お互い様」「同じ釜の飯を食う仲間」など の話をしながら利用者同士で助け合えるよう に、職員は接着剤としての役割が出来ると 心に掛けている。	○	出来ることはやってあげる、自分も助けてもら う事の嬉しい気持ちを大切にしている。(車椅 子を押しあげたり、入りやすいようにコタツ 布団をめくってあげるなど)。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	開設より日が浅いので退所された方は少ないが、地域から情報の情報は難しいため、家族に聞いたりして情報を得るようにしている。	○	地域の中での集まりや買い物などで、家族と会う機会をとらえたりしながら情報を得るようにしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好きなこと・してほしいこと・食べたいものなどお茶の時間などを利用して思いや願望を聞いたりしている。自分からの発言がない方については、日々の生活の中で様子を見ながら理解できるように努力している。	○	なかなか意思の疎通の出来ない人もいるが、入浴時・外出時・夕食後など生活の場面ではとてもよく話す方もいるので、チャンスを逃さないようにすると共に、家族から話を聞く時もある。
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者本人に話してもらったり、生活していた地域社会の中の関わりをもっていた方(看護師・他の事業所の方)になどに差し支えの無いような範囲で協力してもらっている。	○	本人から聞く願望も混じってしまい、はっきりしない面もあるがご家族や地域の関わりがあった方から情報を得ることもしている。
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活をいろんな場面で把握し、職員間で情報交換をしている。生活のリズムを大切にしてその人の生活を把握している。	○	毎日の生活の中での小さな変化を見逃さないようにしている。(話すこと・食事・睡眠時間・排泄など)。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の生活の中での変化していく状態を把握して、朝・夕の引継ぎ等利用し検討し介護計画に反映している。	○	なるべく多くの職員が参加出来るように時間を考え、多くの目を見た様子をモニタリングするためカンファレンスを行なっていきたい。

認知症グループホームてととと和合

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	情報の変化がある場合は職員間で情報を交換し、家族・主治医等関係者と連絡をとり介護の方針を話し合い計画の見直しをしている。	○	本人の変化していく様子や希望を取り入れ納得して生活を出来るように計画していきたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日を三回に分けてなるべく生のままの記録をし、勤務交代しても記録により確認できるようにしている。	○	生活の様子を記録していくが、エピソードなども一緒に記入するようにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ほとんどの利用者が服薬をしている。家族からの要望をふまえ、受診・服薬の管理など主治医と相談しながら対応している。	○	開所から一年六ヶ月過ぎたところなので、ショートステイは出来ないが今後地域からの要望もあり取り入れていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の区長をはじめ、地域の方々・消防署・民生委員など避難訓練や散歩のときなど通してふれあいが出来ている。中学生の訪問は月一度だが良い関係作りが出来ている。	○	地域の中には高齢者も多くいるのでホームが集まりの拠点となれるような工夫をしていきたい。現在は農産物のおすそ分けなどを通して交流をしている。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望を取り入れ、入所前からなじみの理容店に訪問サービスしてもらっている。併設する宅老所でおこなわれている読み聞かせの会のサービスも楽しんでいる。	○	地域の中のサービス事業者との話し合い等行い、利用者の為のサービスについて情報も得ていきたい。

認知症グループホームてととと和合

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営会議には地域包括センターの職員にも参加をしてもらい、関係する市町村の情報交換をしている。	○	地域包括センターとのかかわりを蜜にしていきたい。特に成年後見人制度について理解し必要となる利用者の発生時対処できるようにしていきたい。
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時かかりつけの医師の把握をし、家族・友人の希望により継続的に受診している。受診は家族の希望も取り入れ、家族及び職員が付き添うようにしている。	○	長期間継続して治療が必要な場合や、専門医への受診が必要とされる場合は、家族等に相談し方針を決めるようにしている。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の中には専門医がいないため、主として主治医からの紹介、家族と相談しながら受診を進めてきた。	○	認知症専門医への受診が出来るように進めていきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームには看護師が常勤していないため、併設する宅老所の看護師に協力を求め、週二回健康チェックや夜間の突発的な様子の変化にも対応できるように協力体制を整えている。	○	医療機関との連携も看護師の意見を聞きながら進めている。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者の入退院については本人の希望も考慮し、関係医療機関との連絡をとりながらすすめている。	○	退院後の生活については、どの程度なら生活が続けられるのかを家族と相談しながら進めている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化してきた利用者については、家族・主治医と連絡をとり早期の受診により方向を見つけて、本人や家族の思いを第一に考慮している。	○	入所時に意思確認書を用いて家族への理解を求めていくようにしていく。

認知症グループホームてとと和合

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>家族会・運営委員会等の機会を利用し家族に納得してもらえるよう又本人も安らかに過ごせるように医療機関への協力・看護師の協力が得られるように検討中である。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>生活の環境が変わることによるダメージが少なくすむように情報の交換や出来る限りの訪問もしている。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		

認知症グループホームてとと和合

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的流れはあるが体調や個人の様子を見ながら、その日の内容を考え支援していくようにし、個人であったり団体であったりと利用者の様子を見ながら対応している。	○	利用者同士が声を掛け合い御茶、散歩が出来るように支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	出かける時、入浴時など更衣は本人の意思で決めるようにし、自己決定がしにくい方には職員と一緒に考え本人の気持ちにそった支援が出来るように声かけをしている。月に1度理容店に出張してもらい希望にあわせてカットしてもらっている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握するとともに調理の手伝い、盛り付けなどを一緒に行ってもらうように声かけし、又時には調理に皆が参加できるよう工夫し、楽しみながら一緒に食事をとって会話を楽しんでいる。		
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好を理解しお酒などは楽しみに飲めるように支援している。また誕生日には、本人の希望献立をとり入れるようにしている。	○	職員が声かけするのでなく、飲みたいときに仲間同士でお茶を飲んだりできるような工夫をしていきたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者の様子、体調、季節などを考慮し、リハビリパンツの使用を減らし、排泄パターンを理解し気持ちよく排泄できるようにしている。		

認知症グループホームてととと和合

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好きな時間に入っていただけることは出来ていないが、入浴を拒む方には、言葉かけ、タイミングを見計らい声かけをし気持ちよく入浴できるように支援している。	○	決められた曜日ではなく、希望に沿って入浴ができるような人員配置と支援をしていきたい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の体調を考え、休息、睡眠をとれるように配慮。眠れない訴えのある方には、ゆっくりおしゃべりし安心して休めるような配慮をしている。	○	居室だけでなくフロアでゆっくりと休めるようなスペースをつくっていく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野を考慮し、食事、畑、掃除などをお願いし感謝の気持ちを伝えるようにしている。漬物、や梅漬けなど経験を活かせる場面をつくったり、外食、外出などの季節に応じた楽しみをつくっている。	○	個々の生活史を知り、その力が活かせるように支援していきたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力により、多少の現金を持っている方もいる。	○	外出、外食時など個々の支払いでお金を使用する満足感を持ってもらえるようにしていきたい。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	自由に近所への散歩で、地域の方々と会話を楽しんだり、散歩することで周りの季節の移り変わりを楽しんでもらえるよう支援している。	○	一人ひとりが希望に沿って戸外に出かけることができるような支援をしていく。

認知症グループホームてととと和合

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	現在は個々で特別な外出の支援は出来ていないため、これからの課題としていきたい。	○	実家へ帰りたい、温泉に行きたい・・・など昔を懐かしく思い出せる場所などへ外出が出来るように職員間で検討、実現できるように考えていきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族やお孫さんにあてた年賀状を一緒につくったり、家族からの電話には、なるべく電話口にてもらい、話が出来る場面を作るようにしている。	○	季節の挨拶状やお礼状など定期的にやり取りが出来るように支援していきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は決めておらず、誰でもいつでも訪問していただけるように配慮している。又知人の来所時は、他の方々に気兼ねのないようにゆっくりお話いただけるように配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、引継ぎなどの折、ケアを振り返り日々の生活の中で身体拘束が行われていないかを確認する。	○	研修を通して身体拘束について考え職員全体が周知していく。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	その日の利用者さんの様子を把握、職員の見守りを徹底、日中鍵をかけることがなく誰でもが自由に出入りできるように支援している。		

認知症グループホームてととと和合

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は24時間を利用者と同じフロアで過ごし、全員の様子を把握するように努めている。又夜間は必ず職員がフロアに待機しており、すぐに対応が出来るようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ほとんどのものが、いつでも使用可能な状態となっているが利用者の状況におうじて対応するようにしている。	○	魔法瓶は職員管理としているが、誰でもが使用可能なものとなるように考えていきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状態を把握することで、転倒、誤嚥などを未然に防ぐため、職員間で情報を共有しあい事故防止に取り組んでいる。	○	ヒヤリハットの徹底により介護状況を常に見直していく。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	夜間及び事故発生時に備え緊急時対応について周知、徹底をはかっている。	○	応急手当・初期対応など研修を通じ職員全員がすぐに対応できるように対処していく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路、マニュアルを作成し、地域の方と一緒に避難訓練を行い災害発生時の緊急対策の協力を得られるよう地区長さんを通じてお願い訓練を行うようにしている。	○	日中の訓練は行っているが夜間など緊急時に備え、夜間時の職員間で確認だけでなく、訓練をするようにする。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	個々の起こりえるリスクについて個別的な見直しを行い、必要に応じて家族等に説明し対応策を話し合っている。		

認知症グループホームてととと和合

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段の状態の把握に努め、体調に変化が見られたときは記録を徹底・引継ぎなど職員間で情報の共有をし、通院など速やかに対応につなげている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬・処方箋を個人毎にケース管理し職員が内容を把握できるようにしている。薬の内容が変更された時は、様子観察を行い状態に変化があったときは、看護師や医療機関と連携をとり対処できるようにはかっている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材を工夫したり、乳酸飲料、牛乳など個々にあった対応をしたり散歩など運動を心がけ、自然排便を促せるように心がけている。又看護師に相談したり気になる方は、お腹の様子をみてもらうようにしている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前の歯磨き・うがいなどを徹底し、個々の力に応じて職員が見守り・介助をして清潔の保持に気をつけている。又義歯については、洗浄剤などを使用もしている。	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嗜好を把握して献立に気をつけ、食事内容を記録しおおまかなバランスをとるようにしている。水分量については、個々の状況に応じ一日に必要な水分を摂取できるように支援している。	

認知症グループホームてととと和合

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ドアや手すりなど共通な場所は、毎日感染予防のため消毒を行っている。食事の前の手洗いを徹底している。インフルエンザはご家族に協力いただき接種するようにし、職員も心がけている。	○	感染予防のため、手拭タオルは個人使用を徹底するようにしていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のため、布巾・まな板等は、漂白・洗浄をおこなう。又冷蔵庫は賞味期限などを確認し衛生管理を心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	草花を育て、入り口にベンチを設置、そこで花を眺めたり話をしたり、くつろげる場所をつくっている。玄関は誰でもが入りやすいよう、明るい雰囲気になるように工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	旬の食材により食事、共有空間では、季節感の感じられるように花を飾ったりと季節にあった飾り物をするなど工夫している。日差しが強い季節には「よしず」や朝顔を植え日光を遮断し暑さ対策をし気持ちよく過ごせるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、個々で過ごせるスペースが少ないため、検討中である。	○	気軽に足を投げ出したり、横になって休める空間作りをしていきたい。

認知症グループホームてととと和合

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に好きな人形や写真を飾ったり、使い慣れたものをご家族が持ってきてくださった方もありますがそうでない方は、ベッドの位置など個々に使いやすいよう相談しながら配置している。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇や窓の開閉で、臭いが無いうように換気に注意し利用者の様子を見ながら温度設定に注意している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせ、環境を確認・見直しを心がけ、手すりを設置するなど安全確保と自立した生活が送れるように工夫している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの表示をわかりやすいよう、利用者に聞きながら表示したり、利用者の様子を見ながら工夫している。		
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑を作り、利用者と一緒に畑仕事ができるようにしている。	○	ベランダをつくり、お茶を飲んだり洗濯物が干しやすい様に工夫していきたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○をつけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

認知症グループホームてととと和合

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所には○をつけること)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者さんは長い人生を歩いてきた先輩であるという気持ちを忘れないように、気持ちが寄り添える介護を心がける。